



園部 増治 議員

### 南古河駅設置計画について

**問** 8月31日の読売新聞に掲載された記事によると針谷市長は、「新駅設置は新市建設計画の先導的プロジェクト。この事業が進まなければ他の事業も進まない。市民に情報公開をしながら、不退転の決意でまちづくりを進めていきたい。」とコメントしている。また、市が新駅予定地周辺で基礎調査の報告会を8回開催したが、強い反対意見はなく早期の新駅設置を望む声が多

かった。課題として収益性、財源、区画整理事業の3つが挙げられているが、これらの課題の整理と今後の取り組みについて、特に新駅周辺のまちづくりに対する考えを伺う。



新駅基礎調査報告会の様子

**答（市長）** 今後の取り組みとして、市民アンケート調査の実施、若年層との意見交換会を予定している。実態を把握し、市民の皆さまに情報公開をしながらまちづくりを進めていきたい。

**答（企画政策部長）** 課題としての収益性については、新駅設置

に伴う費用を上回る新規利用客による収入確保が必須である。財源については、用地および建設費用は原則請願者の全額負担とJRから要請されているため、合併特例債や外部資金の導入等も視野に入れた財源の確保の検討が必要である。

**答（都市建設部長）** 新駅周辺のまちづくりの取り組みとして、茨城県都市計画協会において、都市計画や建築など、各分野の専門家をまちづくりアドバイザーとして派遣する制度があるため、大堤南部土地区画整理事業地元勉強会に、土地区画整理に詳しい講師の派遣申請をしているところである。

≪その他の質問≫

・防災・減災について



赤坂 育男 議員

### 古河駅西地区の歴史的景観の保全・整備について

**問** 古河駅西地区には、歴史ある町並みが数多く残っており、古河市の観光を支える大きな役割を果たしているが、近年空き家、空き地が目立つ。このような景観の保全、整備について見解を伺う。

**答（市長）** 景観法に基づく古河市景観計画を作成後、平成27年に古河市景観条例を施行し、景観の保全、誘導に努めている。

また、同計画においては、古河歴史博物館周辺を計画形成重点地区として指定しており、古河市の歴史、文化を生かした景観形成を図っている。今後は景観形成重点地区の拡大や新規指定も視野に入れていきたい。また、景観の保全については、市民の景観まちづくり意識の醸成を図るため、平成28年より隔年で、良好な景観の形成に貢献していると認められる建築物等を表彰している。今後も啓発活動を行っていききたい。



### 旧軽部医院の跡地利用について

**問** 旧軽部医院の跡地は古河市

に寄附されてから十数年経過しているが、利用の方策が示されていない。そこで、地域の交流拠点として活用できる、子ども食堂を開設してはいかがか。今後の利用目的について伺う。

**答（市長）** 子ども食堂は古河市においても今年3月より大山地区で月1回開設されており、潜在的なニーズはあると見込まれる。旧軽部医院の跡地活用については、現在の建物の取り壊しや維持管理費用等も含めて精査し、福祉目的での活用を前提に、何よりも寄附者の意向を大切に今後検討していききたい。

≪その他の質問≫

・防災について